



■リーダー研修報告



7月4日～5日に、生徒会執行部役員を中心に各クラスHR長、副HR長で『名護青少年の家』にて1泊2日のリーダー研修を行いました。

1日目の研修では、『はじめについて』をテーマに、各班で意見を出し合い発表をしてもらいました。まず、はじめとはなにかから考えてもらい、全員が思っているはじめについてを明確化し、そこから【はじめとはどのようなときに必要か。】【はじめがつけられていない場合はどのようにしたらはじめがつけようになるか。】など様々なはじめに対する問題への解決案などを発表してもらいました。各班真剣に取り組んでいる姿が見られました。

2日目の研修は、学園祭企画発表会で各学年のHR長、副HR長が事前に書いてもらった企画書をもとに何を学園祭で行うかという企画のプレゼンを行っていました。生徒会に協力してもらい運営を行いました。各クラスHR長、副HR長は緊張しながらのプレゼンでしたが自分のクラスが行いたいと思っている企画について堂々と説明していました。

(報告者：生徒会副会長 2年4組 石川晴日)

■交通安全講話 7月9日(月)



嘉手納警察署交通企画課平敷兼人警部補に交通安全講話をして頂きました。前半は、自転車についてスマホや傘をさしながらの運転は危険であるなど『自転車安全利用五則』の内容で

した。後半は、自動車運転について、不注意、錯覚、怠慢運転などが原因の交通事故などの話がありましたが、何よりも「ルールを守らないと、絶対幸せにならない。絶対、ルールは守って下さい。」と力を込めた訴えがよく伝わりました。最後に、交通安全委員2年8組吉平哲大君が「自転車の安全利用について確認することができました。今後も加害者・被害者にならないように、しっかりとルールを守ります。」と生徒を代表してお礼の言葉を述べていました。

■障がい者・高齢者体験報告等 7月10日(火)

6月18日、JRC同好会は「障がい者目線の体験、学校施設のバリアフリー化を考える」を目的に、車いす・視覚障がい・高齢者体験グループに分かれ「障がい者・高齢者体験」を実施しました。当日は、読谷村社会福祉協議会からも職員の方に来て頂き色々アドバイスを受けたそうです。同会を代表して3年8組津波古樹生君、岩田紗礼さんが報告および意見書にまとめ校長室に提出しに来ていました。それによると、学校施設に関しては、体育館スロープの勾配が急で手すりも低いことや、点字ブロックが少ないなど、また、「障がい者や高齢者の目線になることで健常者目線で作られている施設では障がいのある人が苦勞したり不安や恐怖にさらされていることを身をもって実感しました。」など多くのことに気が付いたそうです。「気づき、考え、行動した、皆さんの今回の企画は大変素晴らしいです。今回の経験をいかし、今後とも社会活動に積極的に参画するよう頑張ってください。」と激励しました。学校施設の改善については、予算と優先順位など総合的に考える必要がありますが、参考にしたいと思います。貴重な意見、ありがとうございます。



題名：『銃・病原菌・鉄』
著者：ジャレド・ダイヤモンド

(訳：倉骨 彰)

前号に引き続き本書を紹介したい。著者はニューギニア人の友人から「なぜ世界各地で格差があるのか？」という内容の質問を受ける。『直接の原因』は、西暦1500年時点における各大陸間の格差で、鋼鉄製の武器を持った帝国は、石器や木器で戦う部族を侵略し、征服して、滅ぼすことができたから」としている。ではなぜ、1500年の時点でそうなったのか。本書はその『究極の原因』を動植物の栽培化や家畜化、そして東西に長い大陸にあるとした。と、以上は復習であるが、その「動植物の栽培化や家畜化」の説明が面白い。今回は、それについて紹介したい。

「人類が栽培する作物の出発点はすべて野生種にある」とある。それは当然だが、つい我々は現在の栽培種のみで過去の食物を想像しがちだ。例えば、アダムとイブが食べたリンゴ。スーパーで売られているリンゴを思い浮かべるが、野生のリンゴの直径は2.5cmで小さい。トウモロコシの最古の原種も、実の部分は2cmにも満たなかったそうである。エンドウの豆(種子)は、現在の1/10の重さであったという。そのエンドウの豆、サヤの中で育つが、野生のエンドウは豆をサヤからはじけさせる。『種の保存』のためそのような遺伝子を持っているのだが、たまに遺伝子のエラーではじけないサヤのエンドウもある。突然変異である。そのようなエンドウの豆はサヤの中でしなびてしまい遺伝子を残せないことになるが、人間ははじけないサヤを収穫するのだ。その中から一部の豆が地面に落ち発芽してまた収穫される。こうした突然変異を起こした個体を人間が持ち帰るようになると、それが栽培種として選択されたというわけである。小麦や大麦なども、突然変異で穂先の実(種子)をまき散らさない遺伝子を持った個体を人間が自然に選択したものだという。なるほど、面白い。

家畜は、肉や乳製品、肥料、毛皮、農耕、輸送運搬手段、軍事的な動力など、人類社会に重要な役割を果たしている。また、家畜と共に生活するなかで、人は動物由来の病原菌に対する抵抗力を失い、身に付けてきた。免疫を有する人びとが、免疫のない人びとと接触したとき、〈疫病が大流行し、ひどいときには後者の99%が死亡している〉というから免疫有無の差は凄まじい。ヨーロッパ人が侵略した大陸の先住民の多くがその疫病で死んでおり、南北アメリカ大陸では〈コロンブスの大陸発見以前の人口の95%を葬り去ってしまった〉とある。『直接の原因』を意味するタイトルの『病原菌』がある理由なのだ。様々な動物の家畜化も試みられた。〈変わり者のウォルター・ロスチャイルド卿が、ロンドンの町をシマウマに引かせた馬車で走りまわったこともあった。〉というが、シマウマは歳をとるにつれ、どうしようもなく気性が荒くなり危険になるようで、家畜化は成功していない。結局、〈20世紀までに家畜化されたのは、たった14種にすぎない〉という。ユーラシア大陸には、そのうち13種の野生祖先種が生息していたというから、多くの点でユーラシア大陸には『究極の原因』があったのである。

※夏休みです。本も沢山読みましょう!!